

氏名	菊 澤 康 子
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1031 号
学位授与の日付	昭和54年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	公営住宅の衛生学的研究 第 1 編 部屋の機能分離よりみた場合 第 2 編 身体障害者世帯向住宅における住生活様式 第 3 編 身体障害者世帯向住宅の構造および設備
論文審査委員	教授 緒方 正名 教授 田辺 剛造 教授 中山 沃

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 編においては、一般世帯向公営住宅における部屋の機能分離の実態および分離の阻害要因を明らかにすることを目的としてアンケート調査を実施した。その結果、分離の必要性を認めてはいるものの、現実には性別、親子、食寝、居寝の各分離の順で非分離世帯が多いこと、その原因には住まい方と住宅形式との間の適合に問題があること、その対策としては住宅規模の再検討や家族構成に応じた住み替え方式の導入が必要であることを明らかにした。

第 2 編においては、身体障害者世帯向公営住宅に居住する車椅子使用者を含む世帯を対象に第 1 編と同様の調査を実施した。その結果、一般世帯に比して食寝分離率は高く、居寝分離率は低いこと、その理由は車椅子による移行時の身体的負担の問題があり、その対策としては、部屋の広さ、和洋の選定、間仕切り形式についての配慮が必要であることを明らかにした。

続いて第 3 編においては、第 2 編と同じ対象に対して、住宅の構造・設備面からの問題点を考察した。その結果、設備によっては、障害の種類、程度あるいは家族構成に応じて選択可能にする必要があることを明らかにした。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は公営住宅に関する衛生学的研究としてアンケート調査により、部屋の機能分離と住宅規模の再検討の必要性を明らかにしたものである。また、身体障害者世帯向公営住宅に居住する車椅子使用世帯では、食寝分離率は高いが、居寝分離率は低く、部屋の広さ・和洋の選定・間切り形式の配慮を要することを明らかにした。更に、身体障害者世帯向住宅は、

住宅の構造・設備面からは障害の種類・程度，家族構成に応じて選択可能にする必要があることを明らかにした。よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。